

るおいの湯郷<sup>さと</sup>」を将来像に掲げ、すべての町民が幸せを感じながら、笑顔で住み続けられるまちづくりを目指すという思いで「笑顔あふれ光り輝くまちづくり」をテーマとしております。

本計画の主な内容ですが、分野毎に目標を設定してございまして、1つ目は「生きる力を育み、だれもが学べるまち」、2つ目に「ともに支え合い、健やかに安心して暮らせるまち」、3つ目に「安心して住み続けられるまち」、4つ目に「自然と安全を守り続けるまち」、5つ目に「地域の魅力を活力にかえるまち」、6つ目に「みんなで知恵と力を出し合い挑戦するまち」と6つの基本目標を掲げ取り組むこととしています。

また、世界的な脱炭素化に向けた動きの加速化、SDGs、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う価値観の変化などの社会変化や

時代潮流に対応した魅力ある鹿部町を目指すため、第6次鹿部町総合計画のもとに、まちづくりを進めて参ります。

それでは、主な施策について申し上げます。

## 漁業振興

す昆布が著しく減少しておりますので、ブルーカーボンでもある藻場の造成を図るため、国の第5次漁港漁場整備計画に基づき、噴火湾周辺地区特定漁港漁場整備事業による大岩地区への囲い礁整備や、新たに人工礁造成事業を進め、引き続き、昆布母藻群落造成事業を展開しながら、モニタリングもしっかりと行い、手法選定や改善ができるよう各機関との連携のもと、昆布増産対策に取り組んで参ります。

はじめに、基幹産業であります漁業でございますが、令和4年のスケソウダラ漁は、過去20年間で最も低い漁獲量となり、さらに燃料・資材等の高騰や、各種の資源の枯渇など水揚げが伸び悩み、依然として厳しい状況が続いております。

漁業の振興は、漁業の魅力向上が何よりも重要であることから、漁業振興事業の精査を行うとともに、今まで以上に漁業協同組合など各関係機関との連携強化が必要です。

中でも浅海資源であります

今後、自主的な資源管理など持続可能な漁業、いわゆる「育てる漁業」は必要不可欠でありますので、カーボンニュートラルに寄与しつつ、令和4年度から試験を開始した天候にも左右されにくい陸上での新たな養殖「青のり陸上養殖事業」を確たる漁業生産につながるため、漁業協同組合を中心に取り組んで参ります。

また、「育てる漁業」の取り組みの1つであります、令和4年度に出来潤漁港内の静穏域を進めておりましたナマコ中間育成事業について、令和5年度は本格的に外海に設置し、資源の維持や漁業生産の向上に取り組んで参ります。

なお、漁船漁業においては、浜値が不安定かつ安値で取り引きされていることから、付加価値向上により漁業者の所得の安定と向上を図り、人材育成や安心安全な水産物の供給体制の構築と水産情報発信に取り組む、その日の漁模様で一喜一憂しない、盤石な漁業体制づくりに邁進して参ります。

次に、漁港整備については、懸案であった本別漁港新港の振れ込み対策事業が令和3年度で完了しましたが、漁港の利用状況を確認しながら漁港機能を維持す

るため、利用漁業者、漁業協同組合と連携を密にし、早期に対応できるよう要望して参ります。

漁業系廃棄物処理施設については、現施設を維持し活用していく方向で結論付けられており、引き続き、効果的な処理方法等の情報を収集し、施設の在り方や運営について、協議して参ります。

## 中小企業・商工業振興

次に、中小企業・商工業の振興について申し上げます。

本町においても、人口減少や商店等の承継問題、さらには新型コロナウイルス感染症の影響により、中小企業・商工業を取り巻く環境は依然厳しい状況が続いております。

このような状況の中、令和4年度に鹿部町産業振興